

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	17068
課題名	血液弾性粘稠度検査の有用性についての検討
研究期間	倫理委員会承認日 ～ 2022 年 6 月 20 日
研究の対象	心臓血管手術、大出血が予想される手術予定患者、抗凝固薬内服患者、術後の抗凝固療法が予定されている患者、血液粘稠度検査が必要と判断された患者
利用する試料・情報の種類	<p>■診療情報（詳細：性別・年齢・BMI・ASA・現病歴・既往歴・手術歴・麻酔方法・術中のバイタルサイン・麻酔時間・手術時間・輸血量、SpO2 など）</p> <p><input type="checkbox"/>手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ）</p> <p>■血液</p> <p><input type="checkbox"/>その他（ ）</p>
研究の意義、目的	<p>血液弾性粘稠度検査は、全血を用いて行う検査機器であり代表的な機器としてトロンボエラストグラフ(TEG)、トロンボエラストメトリー(ROTEM)が挙げられる。</p> <p>これらの機器は、全血検査なので血小板と凝固因子の相互作用を評価できる、凝固活性化の速度を評価できる、血餅の強度を測定できる、凝固過程だけでなく線溶過程も評価できる、凝固、線溶過程を数値データだけでなく波形から視覚的に評価できる、血液を遠心する必要がなく特定の検査項目なら比較的早く結果が出る、など従来の凝固機能検査に比べて利点が多い。</p> <p>しかし、従来の凝固機能検査との比較、TEG と ROTEM との比較検討をしている論文は少なく得られた検査値の解釈は難しい。</p> <p>本研究はこれらの機器から得られた情報、従来の凝固機能検査で得られた情報などを比較検討することにより、血液弾性粘稠度検査の有用性を検討する。</p>
研究の方法	当院で周術期管理に血液弾性粘着度検査を使用した患者を対象に各検査項目を調査し、従来の凝固機能検査との比較、その値の妥当性、診断、治療への有効性を検討する。
その他	本研究に団体・企業等とは関与しない
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p>

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

住所：〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1-1

所属：旭川医科大学麻酔科蘇生科

研究責任者：高橋 桂哉

電話番号：0166-68-2583